

Yuri's Night JAPAN 2009 開催報告書

Yuri's Night JAPAN
実行委員会

目 次

目 次 2

1. Yuri's Night JAPAN について.....	3
1.1. Yuri's Night の開催趣旨	3
1.2. Yuri's Night の歴史.....	3
2. Yuri's Night JAPAN 実行委員会 活動概要.....	5
2.1. 実行委員会の運営	5
2.1.1. Yuri's Night JAPAN の常設化	5
2.1.2. Yuri's Night JAPAN ウェブサイト	5
2.1.3. メーリングリストの管理・ドキュメント共有	5
2.1.4. 組織運営の課題と対策	5
2.1.5. Yuri's Night 本部・海外との連携	6
2.1.6. 地区開催との連携	6
2.2. 会計・協賛.....	6
2.3. 広報.....	6
2.3.1. ウェブサイト.....	6
2.3.2. メーリングリスト	6
2.3.3. 告知チラシ	7
2.4. 実行委員会組織	7
2.5. 主催者より	7
3.1. 概要.....	8
3.1.1. 名称	8
3.1.2. 開催日時.....	8
3.1.3. 開催場所.....	8
3.1.4. 開催報告.....	8
3.1.5. プログラム	8
3.2. 主催者側から	9
3.3. 参加者統計.....	10
3.4. 写真、動画配信について	11
3.5. 反省点	11
3.5. スポンサー	12
3.6. 12	
4. 日本のその他の会場	13
5. 会計報告.....	13
5.1. 協賛.....	13
5.2. 後援.....	13
5.3. 特別協賛	13
5.4. 協力.....	13
5.5. 決算.....	14
5.6. 寄付.....	14
6. 謝辞.....	14

1. Yuri's Night JAPAN について

1.1. Yuri's Night の開催趣旨

Yuri's Night は、人類の宇宙への探求を音と映像そしてダンスによって祝福する、地球全体に広がる非営利・平和主義に基づく草の根活動です。毎年 4 月 12 日、世界中の若者たちが宇宙の神秘と地球の尊さを感じ、分かち合うために集います。

日本での開催が本格化した 2001 年は宇宙そして地球の人類にとって素晴らしい一年でした。2001 年はロシア共和国がユーリ・ガガーリン宇宙飛行士による人類初の有人宇宙飛行に成功して 40 周年、またアメリカ合衆国が再利用可能な有人宇宙船であるスペースシャトルの打ち上げに初めて成功してから 20 周年という記念すべき年です。そして 2001 年は、この二つの国が共に協力し合い、国際宇宙ステーション (ISS) を軌道に乗せ、本格運用を開始した年でもありました。

Yuri's Night はこれらの卓越した人類の飛躍と新しく刺激的な目覚めを祝う祭典です。ユーリ・ガガーリンは宇宙から地球を眺め、その素晴らしくも儚い美しさを目の当たりにした最初の人間でした。

彼が初めて宇宙から地球を見つめた時、その目には人の手によって引かれた国境線も紛争も映りませんでした。私達が抱える様々な問題も人類が築き上げてきた数々の功績も見えませんでした。その時彼が見たものは、美しく尊い惑星である地球…。それは宇宙空間に漂う小さな小さなオアシスであり、私たち全てが分かち合う“我が家”でした。

ユーリ・ガガーリンだけでなく、宇宙飛行を経験した世界各国の宇宙飛行士達は、地球がいかに小さく、またそれを守ることがどれだけ大切か、さらに 私たち人類の個々の違いはいかに小さな問題であり、それを乗り越えて協力し、平和に共存することがいかに大切かという、新しい価値観の目覚めとともに地球に帰還しています。この宇宙的視点による新たな価値観から啓蒙される新時代への国際協調精神こそ、私たちがこの Yuri's Night を通じて祝福し、参加者全員で共有しようとするものです。

4 月 12 日には世界中の人々がこの新しい時代の幕開けを記念し、祝うために集います。これはまた、私達がこの惑星の明るい未来のために好奇心や冒険心を持って互いに刺激し、そして協力を通して何ができるかを探求する機会にもなるでしょう。この夜、Yuri's Night に集う若者達は“地球人として生きる”ことを祝福します。

1.2. Yuri's Night の歴史

人類共通の宇宙記念日

ロシア共和国では 4 月 12 日が宇宙飛行士の日となっています。1961 年のこの日、ユーリ・ガガーリン宇宙飛行士は史上初の宇宙飛行に成功し、人類で初めて宇宙から地球を眺めた人となりました。そしてこの成功は、人々が持つ宇宙飛行という壮大な夢への扉を大きく広げるものとなりました。

またアメリカ合衆国では 1981 年 4 月 12 日に、人類初の再使用可能な有人宇宙往還機であるスペースシャトルの初号機がその飛行に成功し、人類の宇宙開拓に大きな貢献をしています。

第 1 回の Yuri's Night は、ユーリ・ガガーリンによる歴史的宇宙飛行の 40 周年、スペースシャトル初号機の飛行成功 20 周年、そして人類初の国際宇宙ステーション ISS の本格運用開始を記念し、2001 年 4 月 12 日に世界で同日開催されました。

そして南極基地を含む 7 大陸を制覇し、世界 29 ヶ国、64 都市の各会場で合計 10,000 人以上の人々が参加し、2000 万人以上の人々が CNN や BBC 等のメディアを通じてその存在を認知するという、まさに地球規模のイベントとなりました。

2002 年 4 月 12 日には第 2 回目のイベントを世界 45 ヶ国、121 会場にまで広がった会場で開催し、地球上でその規模を拡大しただけでなく、早くも宇宙にまで飛び出しました。

地球の周回軌道上から世界に広がる各開催地に向け、国際宇宙大学卒業生で現在 NASA の宇宙飛行士である Jim Newman 氏が、STS-109 ミッションのためスペースシャトルで飛行中に、お祝いのビデオメールを送信してくれました。

さらにイベント直前には、国際宇宙ステーションで勤務している 3 人の宇宙飛行士からもお祝いのビデオメッセージが届きました。そしてこれらのメッセージはインターネットを利用してすぐに各イベント会場に配信され、世界中の参加者に紹介されました。

宇宙を祝う？

宇宙飛行士達が地球を眺める時、彼らは国境線に区切られた世界を見出すことはありません。彼らが見るものは広大な宇宙に小さく浮かぶ、地球という 貴重な惑星とそこに生きる人類だけです。私達はこのイベントを通じ、人類とこの惑星の将来を担う若い人々が彼らと同じ意識を持ち、我々の暮らす尊い地球の存在を祝い、その明るい未来を考え、共有できることを願っています。

地球全体で祝う？

2004 年は 36 カ国 75 会場、2007 年は 35 カ国 126 会場、そして、今年 2009 年は、47 カ国・217 以上の会場で Yuri's Night が開催されました。

日本では？

日本国内では 2001 年に仙台、筑波、東京、京都の 4 会場で第一回イベントが開催され、2002 年にはこれら 4 会場に新たに岡山県美星町の美星天文台が加わり、4 月 12 日のイベント開催中に天文台から国内外のイベント会場に向けて星空観測ライブ配信を行いました。東京では国内取扱い代理店による宇宙旅行紹介や、宇宙飛行士からのビデオメール紹介など各種プレゼンテーションをはじめ、宇宙に関するクイズ・トーナメントや美星天文台からの星空ライブ映像受信など、様々なアトラクションを行いました。これらのアトラクションにより、普段は宇宙というトピックに馴染みの少ない方々も気軽に参加でき、宇宙の研究やハイテク技術の開発に携わる方々などと交流できる有意義で楽しいイベントとすることができました。

その後も、2004 年には、秋田、北海道、東京会場、2005 年には、東京の日本の宇宙開発 50 周年記念講演をはじめとする、札幌、秋田、大阪会場、2006 年には、秋田、東京、神奈川、愛知、大阪会場、2007 年は、秋田、筑波、横浜会場、2008 年は、東京会場が日本科学未来館で過去最大規模で開催された他、相模原、京都会場と、毎年、年々規模を拡大しつつ実施されています。

2. Yuri's Night JAPAN 実行委員会 活動概要

2.1. 実行委員会の運営

2.1.1. Yuri's Night JAPAN の常設化

これまで日本の Yuri's Night 開催にあたっては、「Yuri's Night JAPAN 200X 実行委員会」を毎年新設して活動して参りましたが、2008 年 12 月 28 日の会議により、「Yuri's Night JAPAN 実行委員会」を 2009 年 1 月より宇宙企画運営会 (SPC) より独立させ、常設化させる事となりました。

参考:宇宙企画運営会 (SPC) :

<http://www.yurisnight.jp/spc/index.htm>

2.1.2. Yuri's Night JAPAN ウェブサイト

2009 年は、tDiary を導入したサイト構築を行い、また同時にスタッフ日記も開設し、広報活動の根拠地としてその任を果たしました。

今後とも、日本における Yuri's Night の情報発信基地として、より一層の充実を目指し、運営を続けていきたいと考えています。

なお、Yuri's Night JAPAN ウェブサイトは、1,161 セッション・3,385 ページビュー、Yuri's Night 2009 ウェブサイトは、2,551 セッション・8,336 ページビュー、スタッフ日記は 579 セッション・1,108 ページビューでした (2009 年 5 月 22 日迄)。

Web 担当:鳥嶋 真也

2.1.3. メーリングリストの管理・ドキュメント共有

2009 年実行委員メンバー用のメーリングリストを作成し、情報の共有を行いました。また、昨年使用したドキュメントを 2009 年実行委員メンバーに公開し、情報の共有および運営の効率化を図りました。

2.1.4. 組織運営の課題と対策

元々、国際宇宙大学 (ISU) 卒業生等による有志のボランティアから派生した、Yuri's Night の日本での活動は、イベントは継続して毎年続いているとは言え、現状の Yuri's Night 実行委員会は任意団体に過ぎず、メンバーも年ごとに入れ替わることも多く、対外的、法的、内部的にも様々な課題を抱えています。宇宙関係者のネットワークは比較的狭い領域に限られており、また実行委員の多くを占める社会人メンバーには本業があるために活動に制約も多く、また、集まった実行委員会メンバーのイベントに対する目的の違いも目立ちます。本来の Yuri's Night の趣旨から鑑みる限り、それぞれの目的で各自がイベントを行えばよいのですが、少ない人的資源で年々拡大する規模のイベントに対応するには、企画の統一化やノウハウの継承、効率的な準備が必要となります。そのため、今回の実行委員会におきまして、イベントの目的・開催趣旨の決定と統一、広報活動や組織運営、人的資源の配分等の面で多くの課題が残りました。関連する別イベントの運営団体の大手 SNS 上での過剰広報問題への対応、イベント準備上での広報リテラシー、実行委員会メンバー間のコミュニケーションの問題、当日の実務やトラブル対応、イベント開催後の振り返りと報告書作成における諸問題等、実行委員会の不手際で、本イベントの運営に当たり、本来のイベントの質の向上とは別の部分でも問題が顕在化し、そのため関係各位にご迷惑をおかけしたこともあると思います。

今後の対策については、毎年課題を残したまま次の年の準備が始まってしまうという事を回避するためにも、本部 SGAC や、例年協力いただいている既存の NPO 組織や企業・個人等との協力関係を密にしつつ、日

頃から、関連する別のイベントや宇宙活動を通して Yuri's Night の知名度を高め、イベントに主体的に関わることの魅力を伝えるとともに、イベント開催のノウハウを引き継ぎ、実行委員会としての信頼関係を築いていくことが大切であると考えています。

今後とも、皆様が楽しめる、より良いイベントを継続的に開催できるよう、実行委員会一同、誠心誠意努力をしてまいりたいと考えておりますので、次年度以降も本イベントへの皆様のなご一層のご支援、ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

Yuri's Night JAPAN 実行委員会 SGAC 日本代表:山下浩史

2.1.5. Yuri's Night 本部・海外との連携

日本の実行委員メンバーが海外 Yuri's Night 本部の Executive メーリングリストに参加し、本部からの情報あるいは日本からの情報を海外本部と共有しました。昨年に引き続き、東京のイベントは世界で見ても大規模なイベントとなり、本部ウェブサイトのニューストピックとしても掲載されました。

海外・本部窓口:袴田 武史

2.1.6. 地区開催との連携

地区開催では、実行委員会側の対応が不十分なところもあり、昨年開催した団体も今年度の開催は見送るなど、あまり機能しませんでした。Yuri's Night JAPAN ウェブサイト上で地区開催の働きかけも行なったことなどから、九州会場として、過去の Yuri's Night の告知にも協力していただいた、熊本の宇宙ニュースサイトの運営者の方から開催の連絡をいただき、Yuri's Night JAPAN ウェブサイト上でも告知を行うなど、成果もありました。また、その他、仙台でも開催を本部サイトに登録するなど、新たな動きも見られましたが、連携をとるには至りませんでした。

2.2. 会計・協賛

一時は資金調達面での問題が開催の収支予想を危ぶませたこともありましたが、結果的には、多くの協賛の皆様おかげや、極力出費を抑えたことなどにより、例年と比べても多額の剰余金が発生しました。詳細は、5. 会計報告を参照下さい。

2.3. 広報

今回のイベントでは以下のような広報活動を行いました。

2.3.1. ウェブサイト

- Yuri's Night JAPAN (<http://www.yurnight.jp/>)
- 世界天文年 (<http://www.astronomy2009.jp/>) [後援]
- 宇宙旅行を知るサイト宇宙観光企画-uk2- (<http://uk2.jp/blog/>) [協賛]
- sorae.jp: 宇宙(そら)へのポータルサイト (<http://www.sorae.jp/>) [協賛]
- エンジン専門 SNS en café (<http://encafe.jp/>) [メディア協賛]
- 月探査情報ステーション (http://moon.jaxa.jp/ja/index_fl.shtml)

2.3.2. メーリングリスト

- NPO 法人有人ロケット研究会(MRP) [協賛]
- 日本宇宙少年団 [協賛]
- 宇宙エレベータ協会 [協賛]
- 宇宙就活
- NPO 法人大学宇宙工学コンソーシアム(UNISEC)

2.3.3. 告知チラシ

- Live in Space Project [メディア協賛]
東京大学を拠点に活動している学生団体「Live in Space Project」の協力を元に、東大新入生勧誘活動の際に Yuri's Night 告知チラシを配布いたしました。
- スペース・ドランカーズ
宇宙好きが集まる会「スペース・ドランカーズ」において、Yuri's Night 告知チラシを配布いたしました。

広報担当: 中村 大地

2.4. 実行委員会組織

Yuri's Night JAPAN 実行委員会

東京会場実行委員長: 鳥嶋 真也

会計: 梁取 康子

海外・本部窓口: 袴田 武史

広報: 中村 大地

Web 担当: 鳥嶋 真也

実行委員: 峰松 拓毅、櫻井 健太郎、木本 篤志、吉弘 辰明

Space Generation Advisory Council (SGAC) National Point of Contact (日本代表): 山下 浩史

2.5. 主催者より

2009 年、8 年目を迎えた Yuri's Night は、世界 47 カ国 217 会場で開催されました。日本では、東京で東京大学武田先端知ビル武田ホールを会場に、Yuri's Night JAPAN の歴史の中でも過去最大規模で成功裏に開催することができました。また、他地域での開催は、活動の詳細把握や連携をあまりとれませんでした。いくつかイベントを確認しており、今後も Yuri's Night が開催趣旨も鑑みて、広く様々な規模での様々な団体や有志による開催の可能性を残すとともに、実行委員会として、日頃からの交流や開催の連携をしていくことの重要性を再認識しました。

一方、海外に目を向けますと、米国では、例年のサンフランシスコや、ゴダード宇宙センターなど、各地で主催者ごとに工夫された特色のあるイベントが行われました。また、米国以外では、欧州地域でドイツでの開催が取り上げられるのと並んで、日本の東京開催も取り上げられたことから、過去の実績の積み重ねによって、Yuri's Night の大規模開催都市として、東京の世界的な知名度が上がってきたと言えるでしょう。

また、アジアや中東、アフリカ、南米地域等でも宇宙開発自体が盛んになったこと、SGAC の活動の拡大などにより、インターネットを通して宇宙を志す若者たちが国の枠を超えて世界中で繋がったことも相俟って、Yuri's Night の規模も世界各地で年々拡大しています。カジュアルな宇宙文化の発信基地として、Yuri's Night が注目を浴び、各国が国民の宇宙開発に対する理解を得る新しい方法を模索するなど、親しみの持てる身近な宇宙開発啓蒙活動のきっかけとして、Yuri's Night が有効な手段になっていることが伺えます。Yuri's Night JAPAN 実行委員会としても、本部組織の母体である、Space Generation Advisory Council(SGAC)等を通して、草の根からの日常的な国際的な協力関係をより深く築いていきたいと考えています。

Yuri's Night 2009 は終了しましたが、昨年 2008 年 10 月の World Space Week(世界宇宙週間)の日本初開催などもきっかけに、このような活動を今後も関連するイベント等とともに行っていくことで、これからも宇宙というコンテンツを利用して、継続的な意義と影響力のある、社会に貢献できる様々な活動を行っていききたいと思います。このような活動を通して、一般の人が日頃自分には遠い存在と思いがちな宇宙開発の最新の動向に触れたり、宇宙を志す人々が具体的な行動を起こす勇気を持てる機会を提供していければ幸甚です。

そのためにも、実行委員会のスタッフ一同、企業や地域団体、市民団体と協力して、より間口の広い、楽しくかつ有意義な企画で、これからの日本の宇宙活動の発展と地球環境の保全、国際協力の促進に、幅広い層のご理解・ご支持を得るために努力して参りますので、今後ともご協力・ご支援の程よろしくお願い致します。

Yuri's Night JAPAN 実行委員会 SGAC 日本代表 山下 浩史

3. 東京会場「アポロ計画 40 周年記念講演会」

3.1. 概要

3.1.1. 名称

アポロ計画 40 周年記念講演会

3.1.2. 開催日時

2009 年 4 月 12 日(日)
13 時 00 分開場、13 時 30 分開演、18 時 00 分閉演。
(懇親会:18 時 15 分開演、20 時 00 分閉演)

3.1.3. 開催場所

東京大学武田先端知ビル・5F「武田ホール」

3.1.4. 開催報告

1961 年 4 月 12 日、Yuri's Night の主役でもあるユーリ・ガガーリンが「ヴォストーク」宇宙船で地球の軌道に乗りました。そのわずか 8 年後、今から 40 年前の 1969 年 7 月 20 日に、アポロ 11 号の月着陸船「イーグル」が、月の「静かの海」に舞い降りました。

その「月」には昨今も欧州、日本、中国、インド、米国の探査機が活動し、今後もロシアの探査機が続き、さらに中国、インドは長期的な探査計画を進行中で、そして 2020 年には米国による月への帰還が予定されています。

そこで、アポロ計画を振り返り、謎多き月の姿を知り、そして今後の月探査の展望を知る機会として、「アポロ計画 40 周年記念講演会」を開催しました。

本イベントでは同時に、近年活発となっている民間企業等による宇宙開発への取り組みを広く皆様に知って頂く機会として、ブース・ポスター展示も併設しました。

また、講演会終了後は懇親会を開催しました。元より、Yuri's Night は歌やダンス、そして飲み物でお祝いするパーティとして始まりましたが、例えばアメリカでは NASA の研究で使用された航空機の展示や、民間宇宙開発に取り組む方のトークショー、また日本でも講演会形式の Yuri's Night を開催する等、その開催形態は世界各地で年々変化してきております。

そこで懇親会では、Yuri's Night の原点とも言うべき「パーティとしての Yuri's Night」をテーマとし、ご講演された方や、当日お越しになられた他の皆様との交流を、お飲み物やお食事と共に楽しみました。

3.1.5. プログラム

- 13:00 …開場
- 13:30 ～ 13:45…開会の挨拶 山下 浩史(挨拶)、鳥嶋 真也(Yuri's Night の御紹介)
- 13:45 ～ 14:30…講演 1:「アポロ計画とその現代的意味」
的川 泰宣氏…(JAXA 技術参与、日本惑星協会理事)
- 14:30 ～ 14:40…10 分休憩
- 14:40 ～ 15:25…講演 2:「宇宙の公共事業化を超えて」
松浦 晋也氏…(科学ジャーナリスト)
- 15:25 ～ 15:35…10 分休憩
- 15:35 ～ 16:20…講演 3:「月の科学 ～アポロから 40 年、人類はどれだけ月を知ったのか?～」
寺藺 淳也氏…(会津大学情報センター、月探査情報ステーション編集長)
- 16:20 ～ 16:50…30 分休憩

パルスジェット機の展示、宇宙関連企業、団体によるブース展示、紹介

- 16:50 ～ 17:50…パネルディスカッション「人類は再び月に帰るのか？ そして日本は？」
司会：秋山 演亮氏
登壇者：的川 泰宣氏、松浦 晋也氏、寺園 淳也氏
- 17:50 ～ 18:00…閉会の挨拶 鳥嶋 真也
- 18:15 ～ 20:00 懇親会

3.2. 主催者側から

4月12日、暖かな春の日差しの下、Yuri's Night 2009「アポロ計画 40 周年記念講演会」は開催の日を迎えました。175 名の方々にご参加いただき、大盛況の内に終了する事が出来ました。

的川様のご講演「アポロ計画とその現代的意義」は、ウェルナー・フォン・ブラウンとセルゲイ・パヴロヴィッチ・コロリョフを主軸に、第二次世界大戦前からアポロ計画に至る宇宙開発の歴史を振り返る物で、ともすればフィクションとも思える数奇な人生を歩んだ彼らの宇宙への熱意と、現実を見極めて堅実に目標に向けて邁進した姿には胸が熱くなる想いです。特に的川様の仰った「危機を危機と感じ取るセンス」、「壁を乗り越える冒険心」、そして「未来を拓くのはよき友と逆境」という言葉は、現代の宇宙開発はもちろん、あらゆる場所で必要な資質であると感じ、大変心に残りました。

松浦様のご講演「宇宙の公共事業化を超えて」は、ジャーナリストとしての斬新な切り口で宇宙開発史に新たな光を当て、その姿を映し出す物でした。アポロ以前を「戦争的宇宙開発」、アポロ以後を「公共事業的宇宙開発」とし、また地上の技術の進歩との対比による論説は、大変新鮮な物でした。そして日本の宇宙開発へのご指摘もまた大変参考になるもので、宇宙開発に関わる者のみならず、宇宙開発を愛する人 1 人 1 人が、今後の行方を見守るだけでなく、直接参加していく事が大変重要であると感じました。また、今回のイベントが、パブリックコメントの応募数の増加に少しでも協力出来たなら幸いです。

寺園様のご講演「月の科学 ～アポロから 40 年、人類はどれだけ月を知ったのか？ ～」では、月の誕生の謎にはじまり、アポロ計画や「かぐや」の成果、そして今後必要とされる探査活動について解りやすい解説を頂きました。特に、最新のトピックスである「かぐや」の成果についての話題はとても興味深いものでした。

今後の十数年間の宇宙開発において重要なキーワードになるであろう月探査について考えるに当たり、大変参考になりました。

そして 3 つのご講演を踏まえたパネル・ディスカッション「人類は再び月に帰るのか？ そして日本は？」では、今後の日本の宇宙開発について、有人活動を含めた大変白熱した議論となり、また会場にいられていた民間宇宙開発に関わっておられる方からの意見もあり、新たな宇宙活動の息吹を感じさせる内容となりました。

懇親会におきましてもまた、多数に方にご参加いただき、大変盛り上がる会となりました。講演者の方々にもご参加いただき、一般の参加者の方々とも熱心に議論されていたのがとても印象的でした。

ご来場頂いた皆様、そしてご支援頂いた皆様に厚くお礼申し上げます。また今後ともこのようなイベントを開催して行きたいと考えており、特に再来年の 2011 年にはガガーリンの飛行からちょうど 50 周年を迎える事から、さらに規模を増したイベントを開催したく考えております。今後とも、ご支援、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

東京会場実行委員長：鳥嶋 真也



的川氏の講演



松浦氏の講演



寺園氏の講演



パネルディスカッション 1



パネルディスカッション 2



PD エアロスペース社の展示



ブース展示・物品販売



懇親会 1



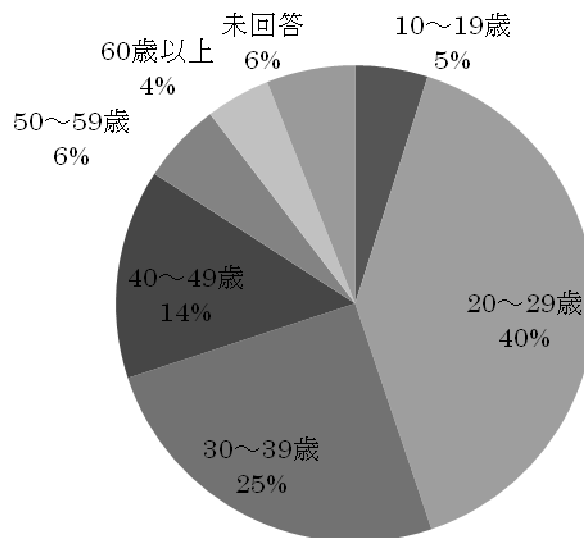
懇親会 2

3.3. 参加者統計

今回のイベントでは 10 代の方から 60 代の方まで男女問わず幅広い年齢層の方がご来場されました。昨今のご時世、若い方々とご年配の方々が交流する機会というのは、残念ながらとても稀なことと思われます。当イベントにおきまして、老若男女が「宇宙」という共通の意識を通じて交流することが出来たということは、当イベントの大きな収穫の1つだったのではないかと考えております。

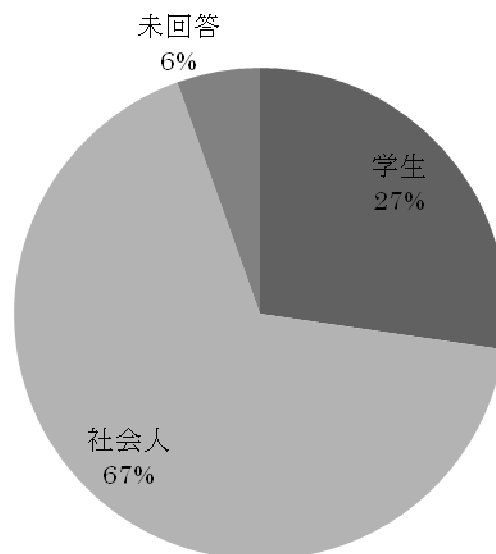
○年齢別

10～19 歳	9 名
20～29 歳	73 名
30～39 歳	46 名
40～49 歳	26 名
50～59 歳	10 名
60 歳以上	8 名
未回答	11 名
合計	183 名



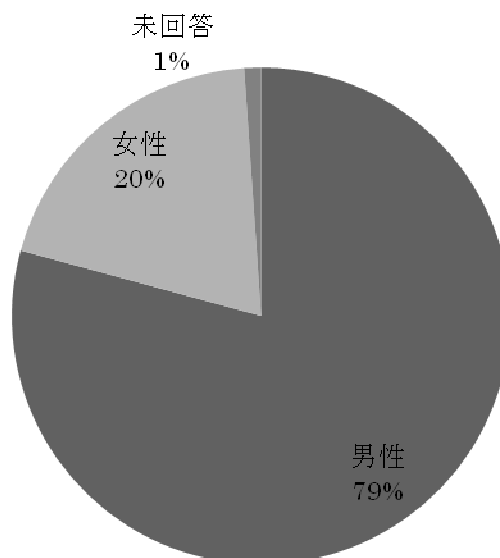
○所属

学生	50 名
社会人	123 名
未回答	10 名
合計	183 名



○男女別

男性	145 名
女性	36 名
未回答	2 名
合計	183 名



広報担当: 中村 大地

3.4. 写真、動画配信について

イベント当日の写真につきましては、Yuri's Night 2009 JAPAN ウェブサイトに掲載しております。以下のページをご覧ください。

Yuri's Night 2009 JAPAN - アポロ計画 40 周年記念講演会 - 写真:

<http://yurisnight.jp/2009/20090508.html>

またご講演とパネル・ディスカッションの様子を収めた動画を、ニコニコ動画、YouTube にて公開しております。

Yuri's Night 2009 JAPAN - アポロ計画 40 周年記念講演会 - 動画:

<http://yurisnight.jp/2009/20090513.html>

3.5. 反省点

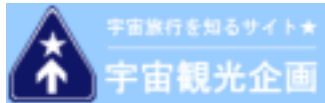
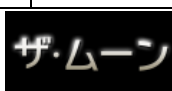
当日来場されましたお客様より、いくつかの点についてのご指摘を頂きました。

- 道がわかりにくかった。
- 懇親会の参加者の札は最初に用意しておけばもっと良かった。
- 懇親会の紙皿と紙コップ、料理が少なかった。
- 御講演者のサインが欲しかった。

等

この他、スタッフ内でも準備中、開催中における反省点がありました。これらは来年の課題とし、改善したいと考えています。

3.6. スポンサー

後援					
 世界天文年 2009					
特別協賛					
 PDエアロスペース株式会社 PD エアロスペース株式会社			 財団法人宇宙科学振興会		
協賛					
 TECH.C.東京テクノロジー コミュニケーション専門学校		 株式会社ロケットプレーン・ キスラー・ジャパン		 sorae.jp sorae.jp	
 宇宙観光企画 宇宙観光企画		 株式会社ジャンプトゥスペース 株式会社ジャンプトゥスペース		 イー・ナレッジ株式会社 イー・ナレッジ株式会社	
 二葉幼稚園 学校法人山下学園		 The Space Tourism Society Japan (STSJ) The Space Tourism Society Japan (STSJ)		 宇宙システム開発株式会社 宇宙システム開発株式会社	
 Space Frontier Foundation		 World Space Week		 株式会社 SIG FD Japan	
 NPO 法人 有人ロケット研 究会					
メディア協賛・協力					
 日本宇宙少年団 日本宇宙少年団		 株式会社エンカフェ 株式会社エンカフェ		 宇宙エレベーター 協会	
 Live in SPACE Project Live in SPACE Project					
 「はやぶさ」大型映像制作委員会			 アスミック・エース エンターテインメント株式会社		

4. 日本のその他の会場

日本では、東京会場の他、秋田、仙台、熊本にて開催されました。うち、秋田、熊本会場につきましては、それぞれの主催者様のウェブサイトにて開催報告が掲載されておりますのでご参照下さい。

- 秋田会場 <http://assprocket.blog100.fc2.com/blog-entry-130.html>
- 熊本会場 http://spacesite.biz/YN_2009.htm

5. 会計報告

5.1. 協賛

企業・団体名	口数
財団法人 宇宙科学振興会	5
東京テクノロジーコミュニケーション専門学校	3
ROCKETPLANE JAPAN	1
sorae.jp	1
宇宙観光企画	1
株式会社ジャンプトゥスペース	1
イー・ナレッジ株式会社	1
学校法人山下学園 二葉幼稚園	1
NPO 法人 Space Tourism Society Japan	1
宇宙システム開発株式会社(SSD)	1
Space Frontier Foundation	1
株式会社宇宙船	1
株式会社 SIG FD Japan	1
NPO 法人 有人ロケット研究会(MRP)	1
World Space Week(世界宇宙週間)	1

※敬称略、順不同

※1口10,000円のご支援を頂きました。

これらの支援金は、Yuri's Night JAPAN 2009 東京会場にて使わせて頂きました。

5.2. 後援

世界天文年 2009 日本委員会

5.3. 特別協賛

PDエアロスペース株式会社

5.4. 協力

財団法人 日本宇宙少年団(YAC)

株式会社エンカフエ

一般社団法人 宇宙エレベーター協会
Live in SPACE project
「はやぶさ」大型映像制作委員会
「ザ・ムーン」 他

5.5. 決算

- 総収入:503,481 円
(内訳: 協賛金、前年度繰越、講演会参加費、懇親会参加費)
- 総支出:356,532 円
(内訳: 会場費、情報宣伝費、会議施設使用費、印刷費、懇親会飲食費、交通費、昼食費、謝礼、雑費等)
- 剰余金:146,949 円
(内訳:うち、60,000 円を寄付金、86,949 円を Yuri's Night JAPAN 2010 繰越金とさせていただきます)

5.6. 寄付

宇宙関連・国際協力等の活動を行う、複数の非営利団体に寄付する予定です。詳細はウェブサイトにて報告いたします。

6. 謝辞

最後になりましたが、2009 年の日本での Yuri's Night 開催にあたり、ご支援、ご協力いただいたすべての皆様へ厚くお礼申し上げます。

「アポロ計画 40 周年記念講演会」に協賛・後援・協力して頂いた企業・団体・個人の皆様、ご講演頂いた川泰宣様、松浦晋也様、寺菌淳也様、司会を務めて頂いた秋山演亮様、会場を貸していただいた東京大学の皆様、写真・動画撮影を担当されました長谷川敏紀様、ウェブサイトやブログ等で本イベントの告知をして頂いた皆様、そして何より当日お越し頂いた参加者の皆様、お忙しい中、本当にありがとうございました。

また 2001 年より日本での Yuri's Night を開催して来られた先達の方々には、そのご尽力に感謝すると同時に、こうして今年も皆様が築かれてきた伝統を繋げました事をご報告出来、大変嬉しく思います。

今回のイベントにおきまして、広報活動や実行委員会の組織運営等、多くの課題が残りました。実行委員会として至らない点も多々あったかと思いますが、今年も多くの皆様のご支援、ご協力により、本イベントを開催出来、無事に終了する事が出来ました。誠にありがとうございました。これらの課題点は次回以降のイベントにおいて改善し、より沢山の皆様が楽しめ、また参加して頂いた皆様の満足度をより高めることが出来るイベントになるよう、実行委員会一同、誠心誠意努力をしていきたいと考えておりますので、来年以降も引き続き、ご支援頂ければ幸いです。今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

Yuri's Night JAPAN 実行委員会 一同